

ネクストワンが戸建て住宅

住宅関連のネクストワンインターナショナル(千葉市、遠藤一平社長)はグループ会社の東日本建設(千葉県市原市)から戸建て住宅事業を譲り受け、主婦の視点にこだわった新ブランドの住宅の販売を始めた。一般に夫よりも妻の方が家にいる時間が長いという、購入時にも妻の意見が通りやすいことに対応する。モデルハウスも増やし県内での販売を強化する。

ママと子ども 住みやすい家



新ブランド名は「ウィズママの家」。東日本建設の住宅を購入した主婦ら10人弱を集め、1カ月に1〜2回のペースでミーティングを開催。1年半ほどかけて意見を吸い上げた。一般に夫よりも妻や子どもの方が家にいる時間が長いことが多く、女性や子どもが過剰に「女性や子どもが過剰に使いやすい設計に徹底的にこだわった」(江沢晃範事業部長)のが特徴だ。

主婦目線の新ブランド拡販

「ウィズママの家」は、1年半ほどかけて意見を吸い上げた。一般に夫よりも妻や子どもの方が家にいる時間が長いことが多く、女性や子どもが過剰に「女性や子どもが過剰に使いやすい設計に徹底的にこだわった」(江沢晃範事業部長)のが特徴だ。家事をするときの動きやすさを重視し、台所や脱衣場を広めにとったほか、延べ床面積の2割以上を収納スペースに充てた。子どもがケガをしないうような丸め柱や、厚い壁をくりぬいてつくった飾り棚などデザイン性も重視した。

2000万円。20〜30代前半のカップルや子育て世帯の購入を見込む。市原市と千葉市に計3棟のモデルハウスがあるが、5月以降には袖ヶ浦市と木更津市にも建てていく。ネクストワンは東日本建設の社長も兼務する遠藤一平氏が10年、主に中古マンションのリフォーム事業を手がけるために設立した。戸建て住宅事業を伸ばすには新しい組織の方が向いていると考え、事業をネクストワンに移した。

マツキヨ

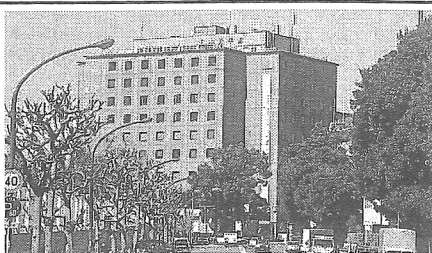
年末時点で全国に1300などを研究する。成果店余りを抱える。「全店で発表や論文を通じて1カ月に500〜600件に社会還元する」(同社)。千葉大はこれら3月までの3年間、マツキヨの顧客や薬剤師からの相談大。

千葉大に寄付講座

や質問が寄せられている。設置期間は4月から(同社)。千葉大はこれら3月までの3年間、マツキヨの顧客や薬剤師からの相談大。

日本青年館 建て替えへ

神宮外苑 16年度完成めざす



スポーツ施設が集まる立地、競技場の建て替えに伴い、日本スポーツ振興センター(同)の施設と一体的に整備する計画で、2016年度の完成を目指す。東京が招致を目指す2020年夏季五輪のメインスタジアムとなる新しい国立競技場に近接するホテル・ホールとして注目を集めそうだ。

大ホールは高度経済成長期に国民的人気を博したテレビのバラエティ番組「8時だヨ!全員集合」の公開放送が行われた場所として知られる。人気アイドルグループのAKB48の初コンサートも日本青年館で開かれた。

かい側には国立競技場があり、19年に8万人規模を収容する新施設への建て替えが決まっている。ただ、建て替えると同館の敷地部分に施設が拡張することから「国家的なプロジェクトに協力する」(日本青年館総務部)。

2つの施設を一体的に整備する新施設は、外苑地区内のテニスコート跡に建設予定で、敷地面積は6800平方メートル。旧施設は14年度に取り壊さ

ホームセンター大手のホームズはインターネット通販をテコ入れする。アマゾンジャパン(東京)のサイト

介護活動にポイント制

千葉市 13年度、65歳以上対象

千葉市は2013年度、介護にかかわるボランティア活動をした65歳以上の市民に、現金などにあてられるポイントを与える制度を始める。活

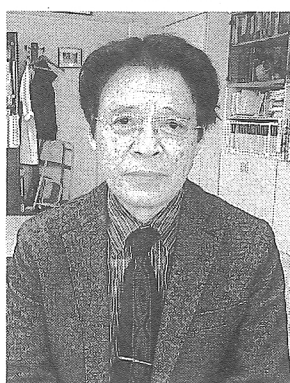
いた活動に対しポイントを出す。30分以上2時間未満の活動で1ポイント(100円相当)を提供する。1日2ポイント以上を有する。活動をした高齢者の専用手帳にスタンプを押してポイントを管理する。

この仕組みに参加する市には、市の研修でボランティアとして認定を受け、必要がある。研修は6月にも開催し、約500人の介護支援ボランティアを確保する方針。

この人が語る

地域社会の基盤 保存に力

国立歴史民俗博物館館長 平川 南氏



文化こそが地域社会の基盤である事実と、このままでは多くの民俗資料が失われかねないという現実があった。

民俗資料の管理、ネットも活用

原始・戦後まで幅広いが、平川館長の専門は日本古代史。多賀城遺跡(宮城県)など東北の太平洋沿岸地域をフィールドに研究を続けてきた。「その代から戦後までカバーする展示は、丁寧に見ると模はまちまち。どこにどんな歴史資料があるかもはっきりとしなかった」。

「歴博などの呼びかけで昨年6月に発足した全日本協議会には600を超える博物館が参加し、年々情報交換できるシステムが稼働した。千葉市内など、地域ごとの横の組織づくりも進んでいる」。

19日には「民俗」展示する予定だ。

震災後に全国組織発足

国立歴史民俗博物館(歴博)が千葉県佐倉市に開館してまもなく30年を迎える。東日本大震災ではいち早く被災地の歴史資料救出に動き、昨年6月には全国の博物館をつなぐ組織を発足させた。震災から2年に合わせ、19日には新展示施設も開く。平川南館長に歴博の活動や将来像を聞いた。

「震災直後から民俗資料救出を始めました。『歴博は数年前から、宮城県気仙沼市の海沿いにある旧家、尾形家の民俗調査を手掛けていた。と協力しながら進めた』津波で母屋のわらぶきの屋根を残して大半の建物壊れたが、担当者が現地に入り気仙沼周辺の民具や生活用具、古文書などを取り戻した。震災で浮き上がったのは歴史や